令和６年度　長野県歯科医師会
「訪問歯科診療推進研修会」
日　程

配信期間　　令和６年11月１日（金）～令和６年11月30日（土）
開催形式　　本会YouTubeチャンネルによるオンデマンド配信での講習

１．あいさつ　　長野県歯科医師会　副会長　　菅　沼　　香

２．研　　修
テーマ「歯ブラシ１本から始まる訪問歯科診療と多職種連携」

（１）基調講演（約80分）
「終末期に発揮される歯科医療の威力
～“歯ブラシ１本”から“看取り”まで～」
講師　医療法人社団LSM寺本内科・歯科クリニック理事長、
日本大学歯学部摂食機能療法学講座兼任講師
寺　本　浩　平　様

（２）多職種連携シンポジウム（約60分）
「不連携にもほどがある！
～“アクシデントから繋がる”から“見つけて繋げる”連携へ」
シンポジスト　長野県介護支援専門員協会監事、
安曇野南介護相談センター管理者
二　村　髙　明　様

長野県歯科医師会地域保健部Ⅱ部員
平　林　正　裕

長野県訪問看護ステーション連絡協議会顧問、
訪問看護リハビリステーションつばさ保健師
都　留　拓　也　様

座長　　長野県歯科医師会理事　前　山　安　彦

（１）基調講演

「終末期に発揮される歯科医療の威力

～“歯ブラシ１本”から“看取り”まで～」

講師　医療法人社団 LSM 寺本内科・歯科クリニック理事長、
日本大学歯学部摂食機能療法学講座兼任講師

寺　本　浩　平　様

＝＜略歴＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

平成１２年日本大学歯学部卒業。平成１４年カナダのトロント大学留学を経て、平成１６年歯学博士取得。平成１９年日本大学助教。平成２４年寺本内科歯科クリニック理事長。現在、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、日本大学歯学部摂食機能療法学講座兼任講師。

＝＜所属学会＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

日本摂食嚥下リハビリテーション学会(認定士)、日本老年歯科医学会

＝＜著書＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

○「誤嚥性肺炎で困らない本」むせずに飲み込める！口・のど元気術．東京：河出書房新社，2017.

○「訪問歯科で威力を発揮する“食支援”」歯ブラシ１本から看取りの歯科医療まで：医学情報社，2019
(https://www.shien.co.jp/media/pdf/BK07767p.pdf)

◎「最期まで診る歯科医院をつくろう！」感動する訪問歯科診療への第一歩：永末書店，2020.
(https://www.shien.co.jp/media/pdf/BK08097p.pdf)
(https://www.nagasueshoten.co.jp/BOOKS/9784816013812)
(https://www.nagasueshoten.co.jp/pdf/9784816013812.pdf)

＝<抄録>＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

私は2000年に歯学部を卒業しましたが、当時の６年間の歯科教育の中に、「要介護高齢者」という文言は存在しませんでした。つまり、通院し、舌は良く動き、むせる事もない外来患者さんは、歯科治療さえ施せば普通に食事ができる事が“大前提”だったわけです。

しかし、歯科訪問診療の現場に向かうと、その“大前提”が崩れます。外来では考えられないほど崩壊している口腔内に唖然とする症例が後を絶ちません。今回は、介護現場におけるその現状をご紹介します。まずは、「摂食嚥下障害」や「嚥下内視鏡検査」などに踏み込む前に、かかりつけ歯科医が向き合うべき責務に焦点を絞ります。そこを踏まえ、その先に生じるであろう、開業医ならではの「食支援」のあり方をお伝えします。

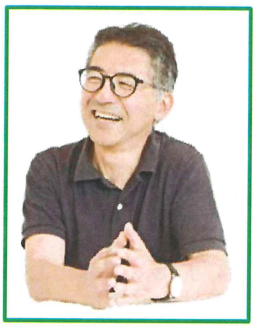
加えて、「誤嚥」や「窒息」の問題。確かに無い方が良いと言えましょう。しかし、これは長寿を達成した人生の先輩方に訪れる、避けては通れない「自然な流れ」であるという我々の認識も重要です。だとすれば、「摂食嚥下障害」として対峙するよりも、その方の「食の道」を尊重し、「結果」ではなく「プロセス」を重視できる資質こそが求められます。

当日は終末期(ナチュラルステージ)に発揮される「歯科医療の威力」を再認識して頂けるよう尽力したいと思います。

（2）多職種連携シンポジウム

「不連携にもほどがある！
～“アクシデントから繋がる”から“見つけて繋げる”連携へ」

シンポジスト



長野県介護支援専門員協会監事、
安曇野南介護相談センター管理者

二　村　髙　明　様

長野県歯科医師会地域保健部Ⅱ部員

平　林　正　裕

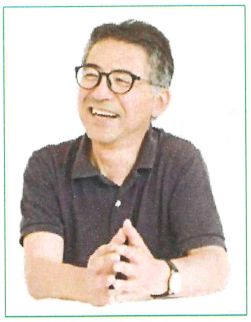
長野県訪問看護ステーション連絡協議会顧問、
訪問看護リハビリステーションつばさ保健師

都　留　拓　也　様

座長　　長野県歯科医師会理事

前　山　安　彦

シンポスト抄録等



「訪問歯科診療を利用して」

シンポジスト　長野県介護支援専門員協会監事、
安曇野南介護相談センター管理者

二　村　髙　明　様

＝＜略歴＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

主任介護支援専門員／社会福祉士／精神保健福祉士。
2000 年より介護支援専門員として勤務。

＝＜抄録＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

かつてほどではないですが、介護サービスを利用中、あるいは認知症の利用者が義歯を紛失するケースがあります。義歯に名前を彫ることで取り違えを防止する事はできても、紛失を防止する事はできません。義歯（特に総入れ歯）を利用していると、義歯の紛失はご本人ばかりでなく、介護者にも大きな影響を与えます。

新しい義歯が必要になっても、介護度によっては受診すら困難な場合がたくさんあります。

そんな時、訪問歯科診療を利用することが、実は普通の受診に比べてもメリットが多く、たいへん有効であったケースをご紹介したいと思います。

＝＜発表、著者等＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

https://www.city.azumino.nagano.jp/uploaded/attachment/53669.pdf

「“アクシデントから繋がる”から

“見つけて繋げる”連携へ」

シンポジスト　長野県歯科医師会地域保健部Ⅱ部員

平　林　正　裕

＝＜略歴＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

歯科医師

平成１９年日本歯科大学卒業、日本歯科大学勤務を経て、平成２５年平林歯科医院副院長

＝＜抄録＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

これまでの在宅歯科医療における他職種から歯科へ紹介は、歯の痛みや欠損・食べられないなどの“アクシデントから繋がる”ことが多い状況でした。しかし、様々な経験を通じて口腔に関する問題を早めに見つけて共有する“見つけて繋げる”連携の大切さに気付きました。令和６年度介護報酬改訂では、在宅等において多職種による口腔内の状態の確認から、歯科医師による適切な口腔管理の実施に繋げる「口腔連携強化加算」が新設されました。“見つけて繋げる”連携の大切さ、そしてそれを促進する「口腔連携強化加算」の概要についてお話させていただきます。

「訪問看護と歯科連携

～症例と口腔連携強化加算取り組み～」

シンポジスト

長野県訪問看護ステーション連絡協議会顧問、
訪問看護リハビリステーションつばさ保健師

都　留　拓　也 様

＝＜略歴＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

保健師/看護師/呼吸療法認定士

平成17年東京医科歯科大学保健衛生学科卒業。看護師として松本市・長野市での病院勤務を経て、平成30年訪問看護リハビリステーションつばさを立ち上げ。令和6年長野県訪問看護ステーション連絡協議会顧問就任。

・長野県訪問看護ステーション連絡協議会
　http://shinano-houkan.com/
・訪問看護リハビリステーションつばさ
　https://www.houmonkango-tsubasa.com

＝＜抄録＞＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

近年、訪問看護に対する社会的ニーズは高まってきており、訪問看護の利用者数や訪問看護ステーション数は急増しています。長野県内でも同様で、令和5年4月時点において訪問看護ステーション数は200を超えています。

利用者は高齢者が大多数ですが、医療依存度の高い方だけでなく、高齢者独居、老老介護、認認介護など、その対象者は多様化・複雑化してきています。また、在宅看取りを希望する利用者や家族も増えています。

訪問看護師は利用者や家族が住み慣れた地域で安心して健やかな生活を送るために、多職種との連携が不可欠であることを日々実感しています。

今回は、嚥下機能低下により経口摂取困難・胃ろう造設となりながらも、口から飲み込むことを諦めたくないというご家族の想いに対して、訪問歯科診療で嚥下評価や経口摂取方法を指南していただいた症例についてご紹介します。

また、「“見つけて繋げる”連携へ」ということで、令和6年度介護報酬改定で新設された、口腔連携強化加算について、自ステーションでの取り組みについて報告させていただきます。